

第3回「青森駅自由通路に関するワークショップ」概要

1. 日 時 平成29年4月16日（日）14：30～17：00
2. 場 所 青森市役所柳川庁舎 2階「大会議室」
3. 出席者 「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議」委員 8名  
 公募市民 13名

4. 発表概要

○1班発表

それでは第1グループの方から発表させていただく。

まず、結論から先に申し上げますと、1, 2, 3の案、どれかに絞り込むことはできなかった。

1案は「A-FACTORY っぼいね」、といった意見、第2案は「りんご箱というのは非常に青森を象徴していていいかもね」といった意見、3案は「なんとなく、ワ・ラッセを連想させるよね」といった意見が出た。

それぞれの「良さ」、「ちょっとな」というところを挙げると、1案は、白い壁、通路の中の壁。これをお話する前に、第1グループの基本コンセプトは、「250メートルの美術館を実現させたい」という事をメインに話し合いが行われたという事で聞いて頂ければ良いと思う。白い壁の部分では、「絵とか写真とか展示しやすいよね」、その反面、全く何も飾られていないと、「のぺーっとした感じで不細工な感じがする」、ネガティブな意見をすると、「2, 3案に比べると暗い感じがする、暗い割にはスポットライトも付いて無さそうだしこの辺どうなっているのか」という様な話があった。そして、美術館として使った時、「立体性のある作品が置きづらい」という話があった。

2案は、「りんご箱、なんかかわいい」、それから、「ウッディな感じ、木目、これがすごく良い」といった良い意見。それに対し、「展示物を何か飾ろうとした時に、壁の主張が強すぎて、邪魔だな」という話になった。

最後の、船の形をした3案、こちらは、「屋根の形がすごく斬新で良い」、「黒い壁がとてもカッコいい」といった意見が出た。逆に、ネガティブな意見では、「西口はどちらかというとちょっと暗い印象があるので、黒い壁だと、ちょっとまた、暗い印象が強調されてしまう様な、もっとパツとする方がいいのではないか」といった意見も出た。

また、250メートル美術館を考えた時に、「赤い壁というのは、色々な展示物を展示するとなると、壁がちょっと主張しすぎて邪魔になるのではないか」といったお話もあった。

その他、全体的についても、もし、美術館をやるのであれば、例えば、年1回、グランプリを決める等、いろんな仕組みを作っていく必要があるのでは、また、通路の使い方に

については、ちょっと誤解しており、今まで、自転車が通れる橋（あすなろ橋）がちょっと豪華になった様なイメージであったが、お話を聞くと、駅に入られる方々も使う、西口に設置されるであろう観光バスの方々も通る、そして一般の方々が通路として使う、といった事で非常に大勢の方が行き来するという事であるので、(私の) イメージと違う事があった。通路の底をスケルトンにして下の線路が見えるなど、そのようにしたら面白い。

全体のイメージとしては、壁がどうか、内壁がどうか、内装がどうだとかいうよりは、「どのように、通路・空間を使っていくのかという事をもっともっと話し合わないといけない」といった意見でタイムアップとなった。なので、250メートル美術館を実現するためには、色々な事が必要になってくるのではないかという事で、第1グループの発表とさせていただく。

## ○2班発表

まず、今回私共に与えられた、3択のうちから1つを選べという事は、ある意味非常に簡単である。我々の気持ちとして、やはり、単に素材と色、「これどうですか」というのではなく、やはり、「駅に物語をどう求めようか」という議論をしたはずであるが、それができなくなってしまったという残念さがある。これは、ある意味でやむを得ない事かもしれないが、問題は出来るだけ絞り込んで今回提案したいと思っている。極論とすれば、どう決めるかであれば、「メンバーで3択投票すればそれでいいのではないか」といった非常に冷めた気持ちと、「そうではない、だからこそがんばろう」といった思いが両方あった。

今回我々は、「駅はいつも出会いと別れ」という下手なコピーを使い、一番大事な点は、どう物語を展開するか。あといろいろな細かい意見が出た。ただこれは、テレビに健康食品のコマーシャルがあるが、「個人の意見です。」という具合になっている。ワーキングというのはそんなものだという思いもある。しかし、それも大事にしないとイケないという事になる。

同じ班といっても、いろいろな人が集まっているので、意見が1つにまとまることはなかったが、大体のイメージとしては、1つ選ぶとしたら2案が良いのではないか。その理由としては、「木の素材感が良い」、「窓ガラスの部分が広く開放的で良い」、「りんご箱の感じが個性があって面白い」といったところで、ただ、イメージの図からすると、ワンパターンな組み合わせというところをもうちょっと掘り下げて、大小を付けたり、凹凸を付けたり、そういうところでもう少し工夫した方が良いのではないかというところがあった。

基本的には、りんご箱にひかれるものがあったというところであるが、こちらの方の絵を見ていただき、ただ内装の飾りとしてりんご箱を使うのではもったいないので、凸凹をつけて、物を展示したりだとか、休んだりとか、向こう側を見ると平行してホームに降りるための回廊が見える。

ホーム（改札内跨線橋）を利用する人と、自由通路の人たちが視線を交わしたり、お話

ができるようなパイプを入れて、お話をし、別れを惜しめるというような仕組みを作れたらどうかと思った。21世紀美術館にパイプが埋めてあって、お話をするような作品がある。これが何十本もあって、それに色を付けると、昔、青函連絡船が紙テープで別れを告げた。そういうデザインとなっているということで第2案を極端に推し進め、やったらどうかということ。進化させる。コンセプトは「駅はいつも出会いと別れ」という臭いテーマで、青森駅に相応しい提案ではないかと思っている。タダでご採用いただいて結構です。よろしくお願ひします。

### ○3班発表

議論を始めるに当たって、人数が非常に少なく、前提条件を整理する中でだいぶ話が進んで行って、共通の意見が出たという事で紙に書き出した。

まずは、2班の方もおっしゃっていたが、3案についてそれぞれ個別にいうよりは、この中から良いところを探して、それを集めてやった方が良いのではないかとこのところがまず議論の始まりである。(発表シートに)1案、2案、3案とあるが、これは無視していただき、全体を見ていただいてと思う。そういった中では、白というところと、ガラスというところが全員で一致した。白とガラスについては、汚れるとか、経年変化だとかあるが、そういったものを緑で変化していく物語とするなどがある。

1案、2案、3案のそれぞれのデザインテーマというものがあつたが、それについては話が戻るのかもしれないが、後ほど議論して整理していただく都市機能というものとだいぶ被って来るのではないかとこの事が出て、全体計画、そういったものを考えた上で、都市機能を考えて連動させていくべきだという意見が出ている。

また、「青森の海、山、空、木の温もり、過去と未来」といったデザインテーマが非常に良いけども、そういったものを少し置いておいて、今回の東西通路については、橋という機能がメインであるので、「橋としてわくわくする様な橋にする」といった事で考えてみたいという事になった。

(発表シートで)水色がうちの班の要らないものを書いたが、1案で、窓がフレームとして機能する様なデザインといていたが、まずそれが要らない。2案については、りんご箱のデザインが要らない。3案については船のデザインも要らない。なぜかというのと、構築物として長く市民の皆さんが時代時代に長く愛せるようなシンプルなデザインをこの橋に表現をしたいと思っている。なので、青森らしい自然、光と風、雪などの自然環境を受け止める橋として機能して欲しいというのでこの案を出している。

夏は海風を感じて欲しいし、橋を歩いて、「夏は暑さと海風、冬は雪の景色を楽しんで」と思うので、開口部は、左右、北と南、全部のデザインを見ると、北側が全部壁になっている。けれども、北側は意外に日中の日差しが均一になっているのと、北側は海が美しい景色になっているので、南と北、両方の開口を大きく揃えて、絵とかコップとか美術品も

大変良いが、その橋を見て、自然、四季折々の景観を見て楽しんでいただけるような、シンプルな機能のある橋になって欲しいというのが3班の意見になっている。

「君の名は」みたいな、電車の上から写真を撮るようなマニアが何回も来てくれるような窓とか、季節によってグリーンを楽しむ様にとか、東京とかだと夏、ミストのシャワーがあるけれど、乾燥を防ぐためにもちょっと歩いて、美しく健康的になれるよとか、グリーンを見ながら自然を楽しめる様な橋になるのも良いなと思う。あと、出来ればなのですが、橋が真っ直ぐではなくて「曲がった先に何かあるのかな」という様な、わくわく出来る様な直線の橋ではないものも可能であればイメージ出来るといいなというので、曲線とわくわくした動線というのを提案している。

青森らしさは、冬一番寒い事が観光客にとっても一番目玉になると思う。橋である事は、もちろん皆さん、旅行者も含めて防寒着を着ているので、必要最低限、例えば、雨と風と大雪を防げれば良いと思う。それはなぜかというと、聞いたら市役所の方々が暖房とかも特に考えてないというので、自然環境と折り合いをつける様な、構築物としての、一番原点に帰るシンプルな機能が必要ではないのかという提案である。1、2班と違うが、「シンプルな上質」という本物が残る青森市の橋になって欲しいと思う。

#### ○4班発表

結論として、どれか1つと絞れた訳ではなく、最終的には2案か3案がいいなという感じになった。2案を推したのは女性3名、3案を推したのは男性2名で、女性は木が好きで男性は金属が好きなのだろうという話をしていた。最終的には、全ての良いところを折衷したデザインになれば良いなと話をした。色々迷って、良いところ、悪いところ、というよりは、こうした方が良いのではないかというところが全部出て、その点について、簡単に説明させていただければと思う。

まず1案はほとんど「ん？」という意見が多かったが、その第一としては、まず外壁が白いので、「見た目の印象でインパクトが感じられなく、そこに、わくわく感が外見が白なので無い」、「青森は冬に雪が降るのにわざわざ駅まで白くする必要は無い」といって意見が出た。

また、「青森の人にとっては、雪は克服するというイメージで、外部の人にとっては、雪とは憧れのイメージがあるので、そのイメージを駅にどう反映するのかということが重要になるのでは」といった意見が出た。あと、1案で良いなと思ったところは、他の2案と違って全部がガラス張りではなくて、通路の部分で所々に反対側にも壁があるので、学生等、ちょっとした待ち合わせ等で寄り掛かって待つ事が出来るというところが1案の良いところだなと思った。

2案は女性陣3名が賛成し、3人の意見で合致していたのが、やはり、木という事で温かみを感じられるというところである。木目調にすると、青森の民芸品である、「ねぶた」

や「こぎんざし」等、全ての民芸品でも木目調なので、ごちゃごちゃした感じが無く、マッチする事が出来るのではと思った。あと、私が特に推すのが、ねぶたの明かり等が鉄壁とかでは無く、木に明かりが反映する事でさらに温かさが感じられるのではと思った。最近では木目調の建物がはやって来ているので、そこに、どう青森のオリジナル感を出すかというのが必要になってくるのではと思った。あと、2案の賛成点は、民芸品だけでなく、他のイベントでも木目調はデザインが邪魔しないので、どの様なイベントでも市民参加で色々なイベントを行うことが出来るのではという意見が出た。2案については以上です。

3案について、まず、中の通路が赤い壁というのが、ねぶたのイメージ、特にワ・ラッセ、また、アウガも赤が使われていますし、赤というイメージで統一して駅の周辺を一体化するということが良いのではという賛成が出た。また、外見が黒ですが、入ってみると赤と、そのギャップもまた中と外で楽しめるのではないかといったところ。そしてまた、文化、歴史、自然、四季、それらを表現する様な通路という事でこれまでのワークショップで色々出てきたが、それらのリストにすべて合致しているのが3案ではないか、といった意見もあった。

ただ一方で、反対案という事で、鉄素材はちょっと冷たく感じられるのではないか、青森は冬、雪が厳しいので、それであれば木の温もりというところでそちらの方が良いのかなというお話もある。また一方で、近くに本物の連絡船があるにも関わらず、わざわざ船のデザインが必要なのかというお話もあったので、その点が反対案としてあった。あと赤い壁はインパクトがあるが、毎日通る市民の感じからすると飽きるのではないかとというのもあったので、この辺については観光客の方とかにはかっこよく見えるところなのかなとは思う。

3案それぞれ、賛成、反対意見があったけれども、共通としてどのようにして欲しいというのが色々下の方にも出てくる。まず、ただの通路というものではないということで、イベントをやったりだとか、ぶらぶら歩くことが出来たり、色々な楽しむ方法が出来るものにして欲しいというのがまず一つあり、例えば、海外から来る人、県外から来る人、観光客の方がたくさんいるが、まち歩きの観光コースとしてぶらぶら入っていける、そのコースの一つになる様な通路になったらいいなというのが一つある。あとは、3案共通していていたのは、北側の眺め、どんな風に見えるのかという事で、2案の木箱のイメージで色々、枠があってそこから覗き窓があって見る事が出来ると、3案も船をイメージした丸い窓があるという事で、そこから北側の景観がちゃんと見える様な通路にしていきたい。

ただ一方でちょっと不安なのが、ホームとかが重なるのではないかとという事で、窓から覗いてもちゃんと見えるのか、その辺の景観がどうなるのかというところが考えるところかなと思った。また、景観として通路を外側から見ても楽しいし、入って歩いても楽しいということで全体的に一体となる様なデザインを求める。中で色々展示物とか置けるよ

うにすると、そこをどんな風に管理して、誰が使ってと、その辺の管理をどうやっていくのかということを決めないといけないのかなというのが共通としてあった。最後に、前回のワークショップで出た、自転車が通れるというのがどうなったのかなと、どうしても駄目なのか、ということを一言添えて終わりたいと思う。

### ○北原コーディネーター（講評）

まとめということで、「3つの案で1か2か3かのどれか」ではなくて、「こういうことについては可能性がある」、「でもこれはちょっとよくない」など、「例えば2をベースにしたときに」ということで、「でもやっぱり」というようなことで、今日、気をつけなくてはいけないことでいくつかハッキリ出てきたのでそれをお話して僕の意見とする。

こういうのはとにかく好き嫌いがある。僕が個人的にいうと、2班のバージョンアップした面白い案が好きですが、それは個人的な問題。

1班の話は、大事なメッセージは「張物ではなく、使い方を考えていきたい。」どう使い方を考えるかイメージを議論したかったという話は、僕は生の声として、これを造るときに、歩く人、ここに滞在して外を見ている人、あるいはここで軽いパフォーマンスをする人、そういう人たちの場合分けをしたときに、設計をしていくときに、その状況をどういう風に整理できるのかという話だと思う。

但し、これは通路なので、我々が期待するほどの滞在とかはできないかもしれない。でもいっていた250m美術館。それは今から15年くらい前に、僕が青森市さんと国土交通省の東北地方整備局さんのお手伝いで、長島駐車場という県庁の下にある地下駐車場のあの通路をどうするかという話の会議に出て、日本で一番長い美術館にするべきという話をした。それがすごく受けて、国土交通省もよしとあって、いろいろと考えたが、地域住民に反対された。あずましくすると、ホームレスの人が滞在するというので、必ずそういうことをいう人はいる。そういう勘違いをする人が。そのひと達のおかげで、ちょっとおじゃんになって、壁の色だって変化させたり、音を変化させたり、面白い通路を歩く人が楽しくなる演出にしようと考えていたが、そんな面倒臭いことはしないほうがよいという話になった。

ここをただ単純に通路として考えたくなる人には「何が？」といわれる。ただひとつ気を付けなくてはいけないことは、歩く人によって隣の人とバッティングするようなことになってしまっただけではないので、あくまでも通路ということを考えてときに、そこでも「許容できるものが何なのか」というあたりを考えなくてはいけないという話がある。

なので、使い方といっても、どういうシステムを作っていくのか、ソフトの話と、本当のことをいうと単なる直線の通路ではなくて、カーブは少ししんどいと思うが、アルコーブをちょっと両サイドに造り込むほうが使いやすい。僕だったらちょっと凸凹を造る。そのような話があったほうがよいのかなという気もした。

ただ、やっぱり、使い方を気にしているというあたりをJRさんにはすごく気にしていただきたいと思う。

2班がいていた話で大事なことは、どういうものでもいいから、やっぱり駅に物語をつくりたいということで、さっき「出会いと別れ」という話、見てどうのこうのというのは、やれば楽しいけれど、順番待ちで大変ではないかと思ったが、青森空港が前そうだった。「飛行機が落ちたら君とはもう会えなくなるね」という感じで、ちょっと嫌だった。

この通路はその後アウガの方につながっていき、その後ずっと新町や新しい庁舎の方、中心市街地の歩ける街につながっていくという物語をここからスタートしてもいいのではないかという、これから大事なプロローグになるという発想で、設計する方には考えていただきたい。

昨日のワークショップでアウガは基点だという話をする方がいた。その基点の前に自由通路はすごく大事。一方で、逆の発想をいうと、西側に降りていく人達の通路と考えると、基点ではなくて、何か向こうに降りていきながら、そちらに行くという話を考えると物語のつくり方というのは大きく違うのかもしれない。

物語という発想を考えると、りんご箱はある種面白いそういうネタとして入っているということで、だからそれが嫌だという人がいてもいいと思うし、りんご箱で閉められている中を覗くというのが楽しいと思う人と、北側の窓というのは光量が安定しているから、大きく開いている方がきっといい訳で、そういう見え方を大事にするという考えからいうと、せっかくのいい空間、景色で見えるはずのものをりんご箱で塞ぐというのはどうかという発想も正しいと思う。外から見た木の質感というのであれば2案がいい。だけど北側から全部押さえてしまった見え方というのは、それはそれで好きな人もいるけれども、大きい景色が見たいという話があると、1がいいか、2がいいか、3がいいかではなくて、見え方の問題と財産の問題を組み合わせとして考えていかなければいけないのではないかという気がする。

3班は、これが通路ということでなくて、新しい橋を架ける訳ですから、その橋の見え方、中からも外からも見え方を気にするということはすごく大事だと思う。

最後の班は、まち歩きのコースとして、この部分があるいは市民参画してみたいな話もあったが、2案か3案か別にどちらが良いという話ではないが、ここを歩くということが、さっき僕が冒頭にいったように、「青森のまち中の歩き」といったようなものに組み込まれていくような魅力ある通路でなければいけないという話をされていたと思う。

基本的に皆さんのイメージは、ここを通過するというのと、この中で何ができるかということと併せながら説明したかったと思うが、もうひとつは外からどう見えるかと同時にここにいる人達、中から何が見えるかというあたりを意識していくときに、それによって窓の切り方、あるいはほかとの関係性とかが出てくるという気がする。全体の流れとしては、垂直の部分から駅のホームの方に降りていくという形で、先ほどの2班のようにそ

こと通路の間で耳でつながるという話もあった。まずは、目でどうつながるか、そしてここから何が見えるのか、青森に来た人に何が記憶に残るかということ、自由通路というだけではなくて考えていかなくてはいけない話なので、僕が1がいいか2がいいか3がいいかという話ではなくて、材質感としてはある種暖かいもの、雪の景色に映えるものを、一方でその歩き方として、どういうふうにと考えたら何が見えてくるかということ、皆さんがいった、今日、負のネガティブな意見をよく見ていただいて、その中で組み合わせなり、どういう風なデザインのバージョンアップができるか考えていただくとすれば、今日とても大事な意見が出てきたような気がする。

いずれにしても万人がこれでいいという話でもないし、たまたま組み合わせでこうなっているが、やはり、我々は今日参加して、意見をまとめるのではなくてその中で何が大事かということを取捨選択していかなくてはいけない、ただそういう話をいうならば、ここから降りて街の方に歩いていく人のことをちゃんと考えてくださいね、といういい方をしたいと思う。まとめにはならないが、僕が今日聞いて、ある種、レベルの高い話をしていただいたと思うし、皆さんが集まって1案から3案をどれがいいかということ、単純に選ばせられているわけではないということ、市役所の方にもご理解していただきたいという気がする。

了